

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600867		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム花縁 (桜)		
所在地	苫小牧市澄川町4丁目3-5		
自己評価作成日	平成24年9月5日	評価結果市町村受理日	平成24年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	grouphome-kaen@rouge.plala.or.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流、地域との連携。ホームの行事や町内会の行事等の際には、互いにボランティアとして参加したり、交流をしている。また、独居の方を招いて食事会を行ったり、交流を深めている。他に、サポーター養成講座やキッズサポーター養成講座も施設のキャラバンメイトが行っており、認知症の理解を深めるため、また啓蒙のための活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠くに樽前山が望める自然豊かな住宅地に位置し、近くにはスーパーなどがあり、バス停・道央道西インターに近く居住環境に恵まれている。木目基調の家庭的な雰囲気、優しさを感じる各ユニットは、東西に居室、中央に談話室・トイレ等を配置し明るく、木のぬくもりが感じられる。浴室には洗濯機等を置かず手すりを多く設置し、広くて安心して入浴できる。談話室に利用者の懐かしい調度品を飾り、座卓、ソファも数ヶ所に置いて利用者同士や家族とのくつろぎの空間となっている。施設長は看護師の経験を活かし、介護計画やさまざまな事柄に細やかに気を配り、利用者・家族から信頼を受けている。職員は明るく利用者と家族のように接し、利用者から職員の相談に敵しなく思いやりのあるアドバイスをしてもらう関係にある。地域との繋がりを大切にして、町内会とも交流がよく、地元の有力紙に大きく紹介されており、町内会、同業者との交流・連携を大切にしている。事業所は行政からも、意見、アドバイスを求められるほど信頼を受け、利用者のその人らしい安全で尊厳のある自立した生活を目指し支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、 安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスや勉強会等で常に共有している。また、どのようにケアに繋がっていくかを職員で話し合い、実践に繋げている。	地域密着型事業所としてのケア理念を作りあげ、ホール・ユニットに掲示し、全職員が理解して介護に反映させている。時には利用者を見守りつつ、残存能力を引き出す介護をしている。家族同様の思いで利用者に寄り添い、その人らしい生活を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の方がボランティアに来てくださったり、町内の行事に利用者が参加したりしている。また、ラン弁等、市や道単位での交流もある。	町内の行事に参加し、事業所の行事に町内会や独居高齢者を招き、避難訓練には地域住民も参加している。通信「すずらん」を配布し理解と支援を求めている。キッズサポータ養成にも協力している。交流状況は地元の有力紙にも紹介された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター養成講座やSOSネットワークシンポジウム等の活動や、すずらん通信の配布等。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者やリーダーが出席し、その内容を職員に伝えている。また、議事録もいつでも見られるようになっている。	年6回開催し、市、包括支援センター、家族、町内会、民生委員、協力医療機関等が出席して、事業報告、事故・ヒヤリハット報告などを行い、意見や要望を得て、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の際や運営推進会議では、利用者の暮らしぶりや具体的なニーズを伝え連携を深めている。	施設長が窓口となり市と密接な連携をしている。市からテーマ毎に意見、協力を求められることもあり、信頼を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや勉強会等で学び、意識の共有をしている。施錠については、夜間のみ防犯上玄関の施錠をしている。	マニュアルをテキストとして月1回勉強会、年1回研修会を実施し共有している。視認とチェックにより出入りを把握し、利用者がなぜ出て行く行動になるか原因を考え、拘束しない取組をしている。日中は、施錠しないが夜は防犯上、遅番が帰ると施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において具体的に学び、グレーゾーンと言われるようなケアも無くしていくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、具体例を挙げ、職員の理解が深まるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。御家族と話した内容については、職員に説明があり、情報共有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会での意見を取り入れたり、面会に来られた際に個別に意見を聴いたりしており、意見箱も設置している。	家族来所時に家族、利用者の意見を聴いている。年2回家族会（夏祭り、クリスマス時）があり、その折に、利用者・家族の意見、意向、要望等収集し、ケアプラン等に反映させている。苦情窓口があり、意見箱も設置しているが、利用はない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや面談等、意見を言える機会がある。	職員は、リーダーに意見・要望を出し、月1回実施のリーダー会議で現場の意見、要望、工夫、アイデアを検討し取り上げて反映させている。事業所は職員との個人面談を実施している。	事業所のますますの質の確保、向上につなげるため、ユニットリーダーが所属職員の要望・意見を聴取してじっくりと話し合える、個人面談などの機会を設けることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、積極的に資格取得を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、勉強会で学ぶ機会がたくさんある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他施設と合同の勉強会等、交流する機会は増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行ったり、ご本人やご家族の言葉を大切にし、アセスメントを行いカンファレンスで話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が求めていること等、利用者に対する想いと利用者の気持ちに配慮しながらアセスメントを行い、ケアの方向性を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスの中から、ご本人のニーズに合わせた支援を行えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることを続けて頂けるよう努めている。職員が知らない事を教わることも多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来訪した際には、ご本人の様子を伝えたり、相談したりしている。また、色々な面でご家族の協力をいただくことも多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人が来訪されることはおるが、こちらから出かけることは減っている。	生活歴、知人、友人、馴染の人を把握し、意向・要望があれば、行き先に電話確認をしたり職員が同行する対応をしている。美容院へ行きたい人、買い物に行きたい人等利用者の希望に沿うよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、作業を通して等常に利用者同士のい関わりに気を配り、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった方のご家族が訪問して下さったり、行事のボランティアに来てくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉を大切にし、想像力を持ち、その人らしさとは何かを考え、ケアに繋げている。	日々の暮らしの中で、表情・言葉・動作、しぐさ、家族の情報から思いや意向の把握に努めている。把握した思い・希望・意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から情報を得てケアに繋げ、更にアセスメントを行いカンファレンスで検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメントを行い、カンファレンスで検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、ご本人の状態に変化があった時には、すぐに見直しをしている。	本人と家族の思いや要望を聴きながら、介護認定調査会の意見も取り入れて、施設長・リーダー・職員がチームとなり現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別のアセスメントシートに記録し、現場でも常に情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応し、ご本人にとって一番良い方法を常に考えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加したり、地域の中でより良く暮らせるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の意向を踏まえ、受診したり、往診に来てもらう等柔軟に対応している。	本人、家族の希望でかかりつけ医に行くときは、状況に応じ職員が同行することがあるが、本人・家族からの要望・同意で、協力医に切り替える利用者も出てきている。協力医を通じて専門医への紹介もしてもらうなどの受診支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、毎日状態を報告している。必要に応じ、主治医への連絡や相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方はいないが、その必要があった場合には、認知症ということを理解して頂いた上で、早期退院に向けた話し合いを行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を掲げており、早い段階からご家族と話し合いを行い、チームで取り組んでいる。	看取りを実施しており、契約時に「看取りの指針」にしたがって利用者・家族に説明し、状況の変化があった時には再度説明し同意書ももらっている。事業所は、職員への教育や心構えに関する研修や勉強会を実施してチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や緊急時マニュアルも作成している。普通救命講習も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な想定で、定期的に避難訓練を行っている。町内会にも連絡し、協力体制を築いている。	年3回の火災訓練は地域住民と消防署参加で実施している。地震や津波想定で近くの小学校への避難訓練もしている。自主訓練では2階へ車いすの利用者避難訓練を実施した。町内会に、事業所外へ避難した利用者の見守りへの協力を依頼している。事業所内の連絡網で通報訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基き、さりげない支援に努めている。	利用者への尊敬とプライバシーを損ねない言葉使いを心がけている。職員の就業の段階で気になる言葉かけのチェックを集中的に行っている。一見なれなれしく感じられる言葉掛けも見られたが、利用者や家族の要望で行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声かけを工夫したり、想いや感情を表出しやすいような関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思い、ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容に来ていただいたり、行事の際には化粧をすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて準備や片付けを一緒に行っている。食欲が落ちている時には、嗜好に配慮したり形態を工夫している。	能力に応じて食材の買い物、調理、片付けをともに、季節感を持った献立を調理師のアドバイスをもとに作成している。IHコンロを導入し安全に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎日記録し、不足している時は好んで食べるものを提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄剤やリフレケアを使用し、清潔保持できるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンの把握に努めており、声かけや誘導等、都度行っている。	個々の排泄パターンを把握して適切な声かけにより対応し、紙パンツから布パンツになった例がある。失敗した時は、目につかないように処理して、利用者の自尊心、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに野菜を多く取り入れたり、水分摂取を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は日中になってしまうが、希望があれば入浴できる。	週2～3回日中入浴が基本であるが、利用者の希望に応じて毎日や朝、夕食後に入浴したり、職員や仲間同士で入浴したりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に合わせて、いつでも休息できる。夜間眠れない時等も寄り添い、安心できる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも見られるようにしている。勉強会等で薬について学ぶこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な作業や役割の定着を行っており、個々の楽しいと思えることや時間が増えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外行事を設けたり、毎週買物に出かけたりしているが、日常的な外出は減っている。	買い物、散歩、ドライブに出かけている。散歩する利用者をそっと見守って、安心・安全を確認している。車いすの利用者も天気の良い日には、外出を楽しんでいる。年間行事の花見、流しソーメン会は、気分転換、ストレス解消となり、季節感を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて御家族と相談し、所持している方もいる。買物等も希望があれば、いつでも対応できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話がかかってくることもある。年賀状は毎年出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りをしたり、昔の生活用品を置いたりしている。不快な音をたてないよう、特に注意している。	木目調で暖かみのある家庭的な雰囲気を感じる共用空間があり、加湿器や洗濯物を利用し調整、温・湿度の記録表を通して管理している。季節感豊かな飾りつけがあり、音や光が気にならない雰囲気の中で穏やかな、落ち着いた生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるスペースもあり、他者と楽しく過ごせるスペースもある。その時の気分で、思うように過ごせる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた家具を置いたり、ご家族の写真を飾ったりしている。	利用者は思い思いに、これまで使い慣れた家具や備品を持ち込み、壁を写真等で飾りつけたりしている。居心地良く過ごせる居室になるよう支援し、利用者はのんびりと落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、環境整備を行っている。転倒等の危険が無いよう配慮している。		